

かけだしの頃

今だから話せる
ゲンバの失敗



12年か13年前に
仕事中に撮影したヒトコマ



白岩工業株式会社
神奈川事業所所長

高木 義明

1988（昭和63）年、白岩工業株式会社に入社。以来、鉄道工事一筋で経験を積み重ねる。座右の銘は「不言実行」。



ウーン、かけだしの頃の失敗談ですか。会社に入ってからほとんど鉄道工事一筋だったから、皆さんの参考になるかはわからないんだけど、ひとつとっておきのネタをお話ししますか（笑）。

あの失敗は会社に入って七年か八年目のころ、一晩でいくつかの駅のホームのかさ上げ（ホーム高を高くする）工事をしていたときに起きました。

終電が終わる、その晩の工所用資材を積んだ車両が入線してきて、ホームに図面どおり資材を配置するよう指示を出していたことなんです。ある職長からとんでもない報告が飛び込んできました。

「資材を図面どおりに配置しているが、どうも現場に合わない」

こちらはそれを聞いて《そんなバカな》と声を荒げずにはいらませんでした。

鉄道工事といえば、乗降客に迷惑がからぬよう、終電から初電が動くまでの正味三時間程度で施工するのが絶対といえます。すると、そのたった三時間で「ホームの高さを変えたい」というのであれば、できる段取りとしてはただ一つ。事前に必要な資材を可能な限り加工しておき、当日は現場に搬入して「並べるだけ」としておく以外に方法はない。

したがって、そもそも現場に合わせて資材を事前に加工しているのに、それが「現場に合わない」というのは、理屈からいってありえないわけです。

この知らせを受けたとき、こちらは一種のパニック状態に陥らざるを得ませんでした。なぜなら、事前に資材を加工しておくのは、工事当夜に現場で手を加える時間がとれないからこそのこと。それを、どうしても現場で加工しなければならぬとなると、どう考えても初電に間に合わない。鉄道の工事屋にとって、これほどの屈辱はありえないわけです。

結局、さきほどの職長の報告は残念ながら本当のことでした。では、なぜそんなことが起きたかですが、それは元請さんからいただいた図面が変更になり、当夜に加工を行いながら設置したことに原因がありました。

通常、こういったことは、元請さんと綿密に連絡をとってれば防げる話なんです。こちらは「設計が急に変わるなんてありえない」と思っていましたから、事前の準備さえしつかりしておけば「何の問題もない」と高をくくっていた。ところが、実際にはその「ありえない」ことが起きたのですから、私どもの油断として指弾されても止むを得ない。

最終的にこの工事は、現場の職長に「なんとかしてくれ」と頼みに頼みこんで、さすがに初電までには完了しなかったものの、被害を最小限に抑えられる時間帯で工事を終えることができました。薄氷を踏む思いとはまさにこのことで、いま思い返してもゾツとする思い出です。